

火災・警戒統計



火災統計 (令和2年中)

火災件数

火災件数は37件で、前年と比べ6件の減少となり、昭和40年以降で最も少ない火災件数でした。

火災件数を種別ごとにみますと、建物火災17件(46%)、林野火災0件(0%)、車両火災9件(24.3%)、その他火災11件(29.7%)でした。

住宅用火災警報器の奏功事例

住宅用火災警報器が鳴動したことにより火災に至らなかった事例が3件ありました。

住宅防火対策として、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられており、本市では、設置率向上と維持管理促進のため、一般家庭の防火査察、防火広報など、あらゆる機会を捉え、普及啓発活動を実施しています。

また、住宅用火災警報器の更なる設置率向上のため、設置が困難な世帯を対象に、消防職員が代わりに取付けを行う「住宅用火災警報器の取付け等支援事業」を令和元年10月末から実施しています。

火災原因

出火原因別にみますと、「こんろ」が4件(10.8%)と最も多く、続いて「たばこ」及び「電気機器」が各3件(8.1%)となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、家庭で料理をする機会が増えているため、料理中にその場を離れない等一人ひとりが火気の取扱いに伴う火災発生防止を徹底しなければなりません。

火災による損害及び死者・負傷者

火災による損害額は83,167千円で、前年と比べ56,902千円の増加となりました。これは、住宅の全焼火災が多く発生したこと、トラック等の積載物の損害額が大きかったことが主な要因となっています。

火災による死者は3名で、前年と比べ2名の増加となりました。内訳は住宅火災が2名、自殺が1名でした。

火災による負傷者は7名で、前年と比べ3名の減少となりました。内訳は住宅火災が5名、工場火災が2名でした。